上郷東地区アンケート調査の企画とご協力のお願い

20150927 横浜国立大学建築計画研究室　大原一興

高台丘陵地における郊外住宅地の超高齢化に対応した居住システム研究

調査の趣旨

高度経済成長期に大都市周辺の高台丘陵地に開発された住宅団地は、少子高齢化が進み周辺から隔絶する傾向もあり、空き家の増加、後期高齢者層の増加により、まちの機能低下や住民生活への影響（地域活力の低下、日常購買施設の撤退、福祉需要増大、将来不安 etc.）が危惧されている。研究としては、超高齢化による住宅・住環境の課題の整理、既存の地域資本（空き家等）を最大限に活用する方法の提示、超高齢社会に対応した社会システムと新たなライフデザインを高齢者自ら作り上げるためのまちづくりモデル構築を目的としている。

調査と方法

調査対象

上郷東地区で開発された戸建て住宅地

調査の内容：高台丘陵地の高齢者居住の課題の整理　　現状認識と実態把握

現在の生活環境の評価

地域住民の将来の意識と空き家等資源の実態の把握

福祉・就労・生活諸課題における必要性・課題の抽出

高台丘陵地の生活における身体状況、社会活動などの特性把握

地域の資源（中学校？）等の活用意向の把握など

調査票の配布・回収方法

配布はポスティング（全戸配布または 2 分の 1 抽出）

回収は郵送にて大学に返信（返信用封筒の同封）

調査の時期　11 月初旬を予定